

○計画期間：平成26年11月～平成32年3月（5年5ヶ月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成26年度終了時点（平成27年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成26年11月以降、認定基本計画に基づき、前計画からの継続性を基軸に「快適生活空間“ルーバン・フラノ”を目指して」をコンセプトに、コミュニティの再生に向け中心市街地の活性化を進めてきた。

特に前計画の核事業として整備された、「フラノマルシェ」では、年間来場者数が開業初年度（平成22年度）の55万5千人から毎年増加を続け、平成26年度においては、約85万2千人の集客を数え、開業以来5年間の累計来場者数は361万人を突破し、多くの交流人口をまちなかへと誘う玄関口としての機能を最大限発揮している。このことは、隣接する商店街の平成26年度の基準地価が1.8%、路線評価額も3.4%それぞれ上昇するなど、開業以来5年を経過し、土地価格が初めて上昇するという波及効果も確認されたことから、現在まで継続性をもって事業展開してきた各種中心市街地活性化の取り組みが、ここにきて結実してきたものと推測される。

また、平成27年2月に実施した市民アンケートでは、約6割の市民が行政と民間の協働による中心市街地活性化の取り組みについて、「大いに期待している」又は「期待している」と回答していることから、本市の中心市街地活性化の各種取り組みは、市民の実感として一定の認知と市民支持を受けているものと考えられる。

平成26年度においては、従前から取り組んできた認定基本計画の核事業の一つである、「東4条街区地区市街地再開発事業（ネーブルタウン）」が、予定どおり年度内をもって完工し、本年6月からの複合商業施設及び認可保育所の供用開始を目指し、現在は、その準備期間であり、まだ定量的成果を発揮するに至っていない。しかし、施設稼働後は、3つの数値目標（居住人口、小売り店舗数、歩行者通行量）に大きく寄与することが想定されることから、引き続き認定基本計画に基づく各種施策を精力的に推し進めることで、中心市街地の賑わいとコミュニティの再生を図っていく。

2. 平成26年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成26年3月26日に法定協議会を開催するとともに、東4条街区地区市街地再開発事業をはじめとする、平成26年度の各実施事業について進捗状況を報告し、前計画から継続して事業実施が可能となったことに大きな評価を得られた。

あわせて、「フラノマルシェ」に続き「東4条街区地区市街地再開発事業（ネーブルタウン）」においても官民一体となって事業推進を図ってきたことにも高い評価を受け、今後は、施設の活用促進においても業種を跨いだ一層の民間連携を図ると共に、引き続き官民連携して認定基本計画を実践していくことが確認された。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
市民の中心市街地への意識向上による協働のまちづくり	賑わい感の向上	8%	38%	5%		①
中心市街地に共同住宅建設の推進	居住人口	1,093人	1,200人	1,079人		①
新規出店舗誘致により商業集積を高める	小売り店舗数	149戸	162戸	150戸		①
滞留拠点施設整備とまちなか情報発信により回遊する人々を増やす	歩行者通行量	2,690人	3,700人	2,645人		①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「賑わい感の向上」については、平成27年2月に実施した市民アンケートにおいて5%の市民が賑わい感を感じているが、「東4条街区地区市街地再開発事業（ネーブルタウン）」で整備した施設の稼働が平成27年度以降であることから致し方ない数値と考えられる。「居住人口」については、今回の認定基本計画から、各種活性化事業の波及効果をもたらす区域として重点地域を設定し、まちなか居住の人口増加を目標に事業推進を図っているが、平成26年度は、認定基本計画初年度となり、事業効果が現れていない中で基準値から14名の微減に留まっている現状は、偏に自然減によるものと推察出来る。「小売り店舗数」においても同様のことが言え、新規開店が3件に対し、閉店及び地区外移転が2件となり、結果として1店舗増の150戸となった。これらの最新値から「居住人口」「小売り店舗数」共に、ほぼ現状維持の状況であると判断出来ることから、今後の事業展開により目標達成は十分に可能と考えられる。「歩行者通行量」においては、今回の認定基本計画から測定箇所を従前の4箇所から更に4箇所増やし、年間85万人以上の来場者数がある、フラノマルシェの集客効果を数値目標に反映させることを目的としており、認定月の関係から10月のみの数値しか採取することが出来なかった為、正確な現状の反映には至っていないながらも、基準値から45名減に押さえられていることは、次年度以降、夏期観光の繁忙期数値が加わることにより目標達成は可能と推測出来る。

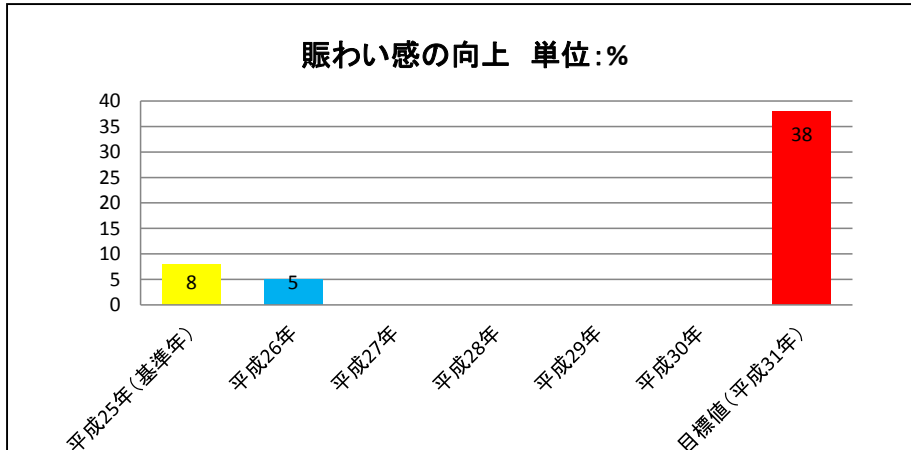
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

I. 「賑わい感の向上」 ※目標設定の考え方基本計画 P87～P88 参照

●調査結果の推移



	(単位 : %)
H25	8 (基準年値)
H26	5
H27	
H28	
H29	
H30	
H31	38 (目標値)

※調査方法：中心市街地活性化に関する市民アンケート（意識調査）の実施

※調査月：平成27年2月

※調査主体：富良野市

※調査対象：平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている18歳以上の市民を無作為に抽出した約千人

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 東4条街区地区市街地再開発事業〔ネーブルタウン〕（ふらのまちづくり株式会社）

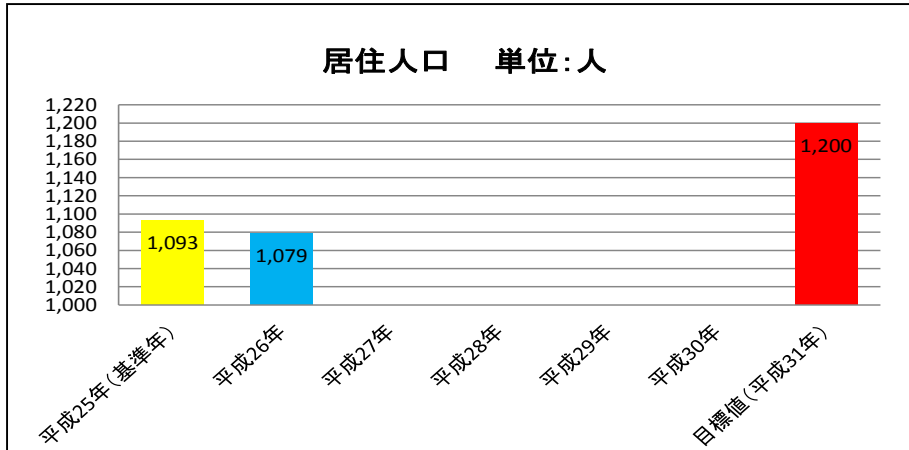
事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	「フラノマルシェ」に隣接する、北側約1.7haの既成市街地に市街地再開発事業（社会資本整備総合交付金事業）により、日常生活に必要な様々な都市機能と居住空間をまちなかに集積し、コミュニティの再生を図っていく。 都市機能：複合商業施設、サービス付き高齢者向け住宅、認可保育所、内科クリニック、居住マンション、個人店舗、アトリウム
事業効果及び進捗状況	平成26年3月末をもって事業完了し、平成27年6月の全面開業を目指し、現在、施行者負担分の工事が進捗中である。認定基本計画に基づく新たな核拠点施設が誕生し、計画の基本コンセプトである「ルーバンフラノ構想」が、また一つ現実のものとなる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成27年6月から、全施設の全面稼働がなされることから、各数値目標には、平成27年の夏以降、波及効果が発生していくと考えられることから、今後の事業推移を注視し、来場客数等の各種数値的データの採取・分析に努めていく。

Ⅱ. 「居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P88～P91 参照

●調査結果の推移



	(単位:人)
H25	1,093 (基準年値)
H26	1,079
H27	
H28	
H29	
H30	
H31	1,200 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳の居住人口を調査

※調査月：平成27年3月31日

※調査主体：富良野市

※調査対象：平成27年3月31日現在の住民基本台帳による中心市街地（30ha）の居住人口

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなか居住推進会議事業（富良野市中心市街地活性化協議会）

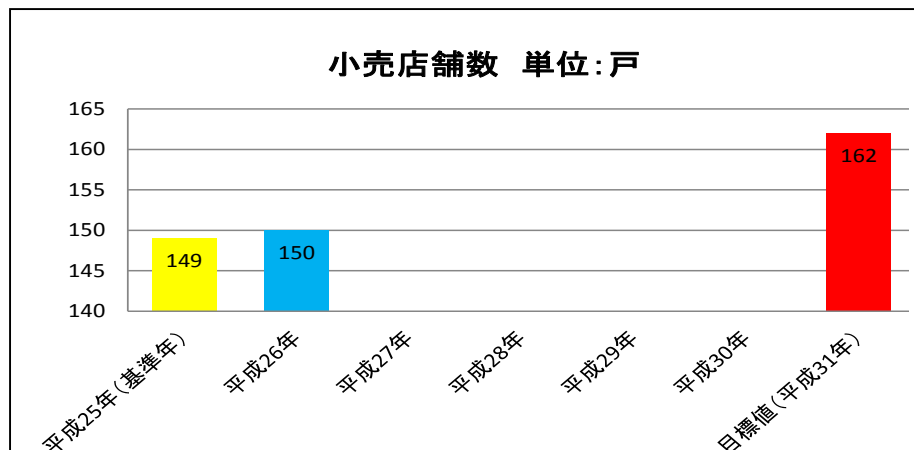
事業完了時期	平成26年度【実施中】
事業概要	富良野市中心市街地活性化協議会運営委員会の「まちなか居住推進会議（まちなか居住専門部会）」により、フォーラム開催及び集中相談窓口を開設することにより、行政との連携を図り建設未利用地の有効活用の提案やまちなか居住の利便性をPRしまちなか居住の推進を図っていく。
事業効果及び進捗状況	平成26年度においては、計画期間が平成26年11月から開始ということもあり、残念ながら共同住宅の建設には至ってはいない。平成26年度は、商業地域の地価上昇もみられ、前計画期間内においても核拠点施設（フラノマルシェ）が誕生すると、近傍の建設未利用地や老朽建築物の利用更新が促進されることが確認されており、継続した啓蒙普及が必要と考えられる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「東4条街区地区市街地再開発事業（ネーブルタウン）」が予定どおり平成26年度末に完工し、平成27年6月以降、共同住宅の入居が開始され、かつての中心市街地が果たしてきた「生活街」としての多面的な役割と都市機能が再集積されることから、まちなか居住の需要が、徐々に高まっていくものと推察出来る。従って、引き続き認定基本計画に明示する各種事業の着実な実施により、目標達成は十分に可能と考えられる。

Ⅲ. 「小売り店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P91～P92 参照

●調査結果の推移



	(単位：戸)
H25	149 (基準年値)
H26	150
H27	
H28	
H29	
H30	
H31	162 (目標値)

※調査方法：建築確認申請及び中小企業振興総合補助金の利用状況を調査

※調査月：平成27年3月31日

※調査主体：富良野市

※調査対象：平成27年3月31日現在の市独自調査による中心市街地（30ha）の小売店舗数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 富良野市中小企業振興総合補助金（富良野市）

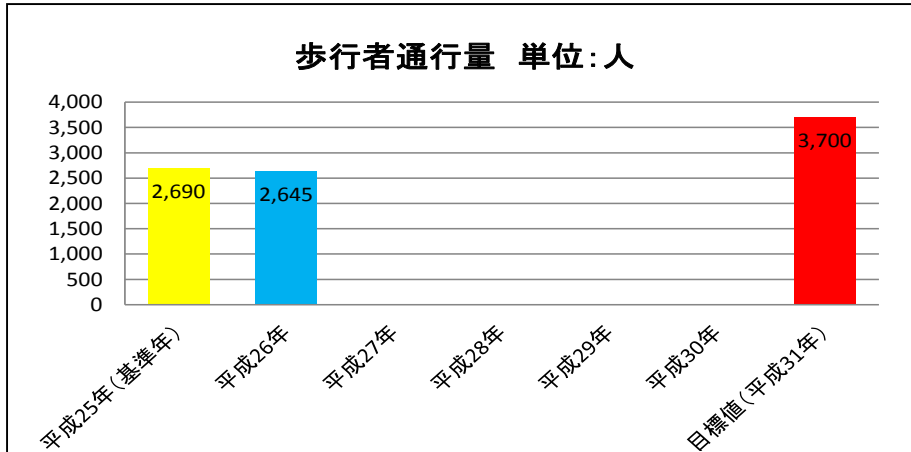
事業完了時期	平成26年度【実施中】
事業概要	中心市街地を以て中心に市内の商工業振興を以て目的に、新規出店者の誘致拡大及び既存中小企業の事業実施を後押しする為、各種補助事業を実施し魅力ある商店街の維持・形成を図っていく。
事業効果及び進捗状況	平成26年度においては、店舗等新築改修費補助事業を以て初め、制度内の他の補助メニューを含め中心市街地領域で10件の利用実績であった。現在、中心市街地内においては、空き店舗が非常に少ない状況が続いており、本制度の需要も大部分が中心市街地ということから、「空いてもすぐ埋まる」という非常に良い循環が出来つつある。こうした状況が、間接的には、商店街の持続発展に多大に寄与しているものと考えられることから、引き続き商工会議所をはじめとする関係経済団体等と連携しながら制度の啓蒙普及及び利用促進を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

今回の認定基本計画から初めて数値目標化した定量的指標であるが、認定初年度として悪くはない数値と考えられる。平成27年度からは、「東4条街区地区市街地再開発事業（ネーブルタウン）」の実績が反映されていくこととなり、継続して数値の採取に努め目標達成を目指していく。

IV. 「歩行者通行量」 ※目標設定の考え方基本計画 P92～P98 参照

●調査結果の推移



	(単位：人)
H25	2,690 (基準年値)
H26	2,645
H27	
H28	
H29	
H30	
H31	3,700 (目標値)

※調査方法：測定箇所（中心市街地商店街8箇所）に於ける時間単位での歩行者数を集計

※調査月：平成27年10月24日（金）、10月3日（金）、10月12日（日）午前10時～午後8時

※調査主体：富良野商工会議所及び市

※調査対象：測定箇所を通行する歩行者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 「サンライズ・パーク」（仮称）整備事業（富良野市／ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成26年度【実施中】
事業概要	市内のほぼ中心に位置する「くにい」跡地周辺に大型バスも駐車可能な「まちなか駐車場」を配置し、商店街への回遊を促進する。また、市民がくつろげる魅力的空間と合わせ「まちなかパーク&ライド事業」に必要な事務所機能や情報発信機能を有する建築物を建設していく。
事業効果及び進捗状況	前回の認定基本計画からの継続事業として、平成28年度以降の交付金対象事業を目指し、平成26、27年度は事業組立及び基本コンセプトの検討を行う。「フラノマルシェ」や「ネーブルタウン」と共に、核拠点施設としてまちなか回遊を誘発する機能装置としての役割を担う施設となる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

基準値（2,690人）に対し、平成26年度は、ほぼ現状維持の数値（2,645人）に留まったことから、「東4条街区地区市街地再開発事業（ネーブルタウン）」の本格稼働後は、基準値を上回る数値が見込まれ、「サンライズ・パーク」（仮称）整備事業完了後は、更なる相乗効果が見込まれることから、いま以上のまちなか回遊が促される。

また、まちなかでは認定基本計画に基づく、イベントをはじめとする各種ソフト事業を継続的に展開していくことから、目標達成は可能と考える。

